

# 参 考 資 料

参考資料-1 試験方法

参考資料-2 工事記録表（新設工事）

参考資料-3 工事記録表（打換え工事）

# 参考資料 - 1

## 試験方法

1. 水浸ホイールトラッキング試験（首都高速道路はく離抵抗試験）...参 1 - 1
2. 改良曲げ試験方法 .....参 1 - 4
3. 直接引張試験方法 .....参 1 - 7
4. 浸透性能試験 .....参 1 - 10
5. 床版耐久性試験 .....参 1 - 12

## 1. 水浸ホイールトラッキング試験（首都高速道路はく離抵抗試験）

### 1. 目的

水浸ホイールトラッキング試験機を用いて、水浸走行による加熱アスファルト混合物の水の作用条件下での剥離状況を測定する。

### 2. 適用範囲

排水性舗装の表層に用いる排水性アスファルト混合物に対し、水に対する耐久性を評価することを目的として適用する。

### 3. 試験器具

#### (1) ホイールトラッキング試験機

- 1) 供試体の形状および型枠供試体の形状は $300 \times 300 \times 50$  mmとする。供試体を試験機に設置する型枠は、 $300 \times 300$  mmの供試体を固定できるので、深さは $100$  mmとする。型枠の底板は図 - 1 に示すような有孔底板とし、水の供給が行える機構とする。

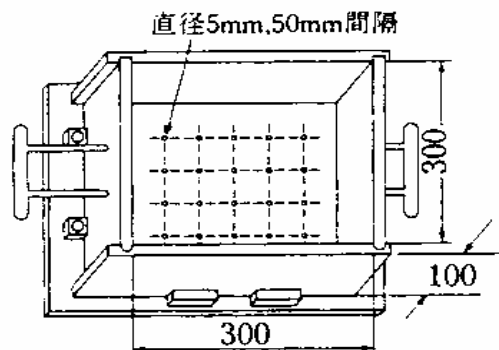


図 - 1 試験用型枠の例 (単位: mm)

- 2) 走行機構ホイールトラッキング試験機（「舗装試験法便覧 3 - 1 - 1 ホイールトラッキング試験方法」参照）と走行試験輪、載荷方法は同様であるが次の機構が必要である。
  - (i) 走行速度および走行距離  
走行速度は $2.1$  往復/min、走行距離は $23 \pm 1$  cmとする。
  - (ii) トラバース機構  
走行方向と直角に連続して移動できるトラバース機構があり、トラバースの幅は $30$  cmまで可能であるもの。トラバース速度は $10$  cm/minとする。

(iii)水浸機構

供試体を型枠ごと所定の温度（60℃）の温水中に水浸できる水槽を持ち、水温を保つためのヒーターおよび循環ポンプを備え、一定水準の水位を保つことができるものとする。水温は $60 \pm 0.5$ ℃とする。

(2) 恒温室

水浸ホイールトラッキング試験機を収容できる大きさを持つもの。恒温室の温度は $60 \pm 2$ ℃とする。

(3) 供試体作製器具

形状 300×300×50 mmの供試体を締め固めできるもので「舗装試験法便覧 3 - 7 - 3 ホイールトラッキング試験方法」の室内での供試体作製器具に準ずる。

(4) 模擬路盤

形状 300×300×50 mmのもので透水性の高いポーラスコンクリート版とする。

4. 試験方法

(1) 供試体および模擬路盤の作製方法

形状 300×300×50 mmのアスファルト混合物供試体を作製する。アスファルト混合物供試体の作製方法は、「舗装試験法便覧 3 - 7 - 3 ホイールトラッキング試験方法」に準ずる。

(2) 走行試験

- 1) 供試体の設置 供試体および模擬路盤を試験用型枠に設置する。型枠の低部に不織布を敷き、その上に模擬路盤を置く。路盤の上にも不織布を敷き、アスファルト混合物供試体を置いて固定する。型枠ごと試験機に設置する。

試験器の概要を図 - 2 に示す。

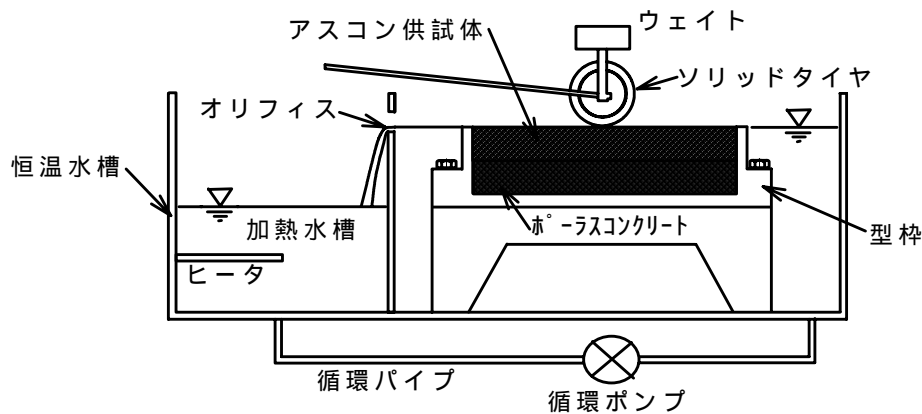


図 - 2 水浸ホイールトラッキング試験機の概要

## 2 改良曲げ試験方法

### 1 . 目的

加熱アスファルト混合物の曲げ強度および破断時のひずみを測定する。

### 2 . 適用範囲

特にたわみ性が要求される鋼床版舗装等に用いられる加熱アスファルト混合物の低温時におけるたわみ性を評価する。なお、従来の曲げ試験と比べ供試体が小さく6面カットすることから、ひずみの変動が小さく、より正確な試験値が得られる。配合設計または品質管理を目的として、研究所または試験室で実施する。

### 3 . 試験器具

#### ( 1 ) 載荷試験機 ( 圧縮試験機 )

- 1) 載荷装置は、長さ 25cm、幅 2.5cm、厚さ 2.5cm の供試体を、支点間長 20cm での支点間中央に載荷できるもの ( 図 - 1 参照 )。
- 2) 載荷速度 50mm/min に保つことのできるもの。
- 3) 試験温度 -5 に保つことのできる低温恒温槽を持ち、その大きさが供試体、載荷装置を収容できること。
- 4) 荷重と変形量の自記記録装置を持つこと。

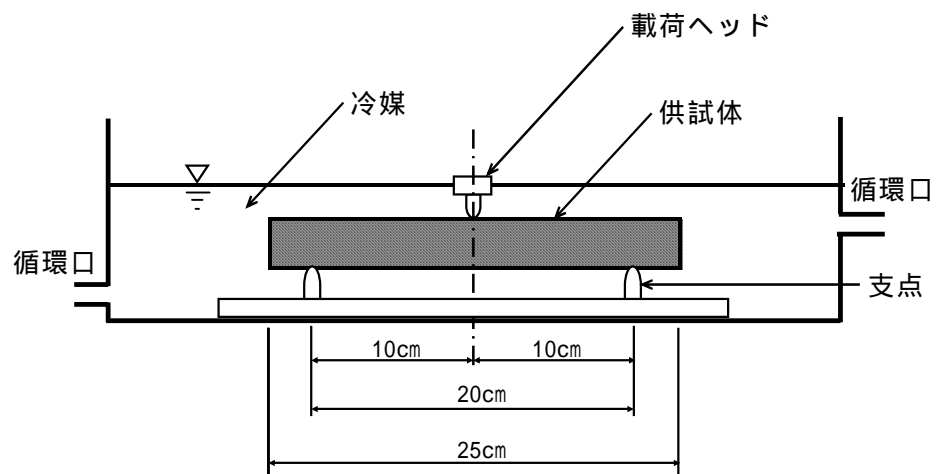


図 - 1 載荷試験機および低温恒温槽の例

(2) 低温恒温槽

供試体および曲げ試験治具を試験前および試験時に養生する低温恒温槽で-5 に温度が保てるもの。なお、恒温槽の周囲を発砲スチロール等の断熱材で養生すると室温の影響を受けにくく温度制御しやすくなる。

(3) 冷媒

メタノール等のアルコールで-5 においても凍結しないもの。

(4) 供試体作製器具

「3 - 7 - 3 ホイールトラッキング試験方法」に用いる供試体作製器具と同一のもの一式。

(5) カッタ

コンクリートカッタ等で、供試体を所定の形状に切り出すことができるもの。

4. 試験方法

(1) 供試体の作製

供試体は、ホイールトラッキング試験用型枠を用い、 $30 \times 30 \times 5$ cm の形状で作製したのち、図 - 2 の要領で  $25 \times 2.5 \times 2.5$ cm の形状に6面全てがカッティング面となるようにカッタを用いて切り出す。

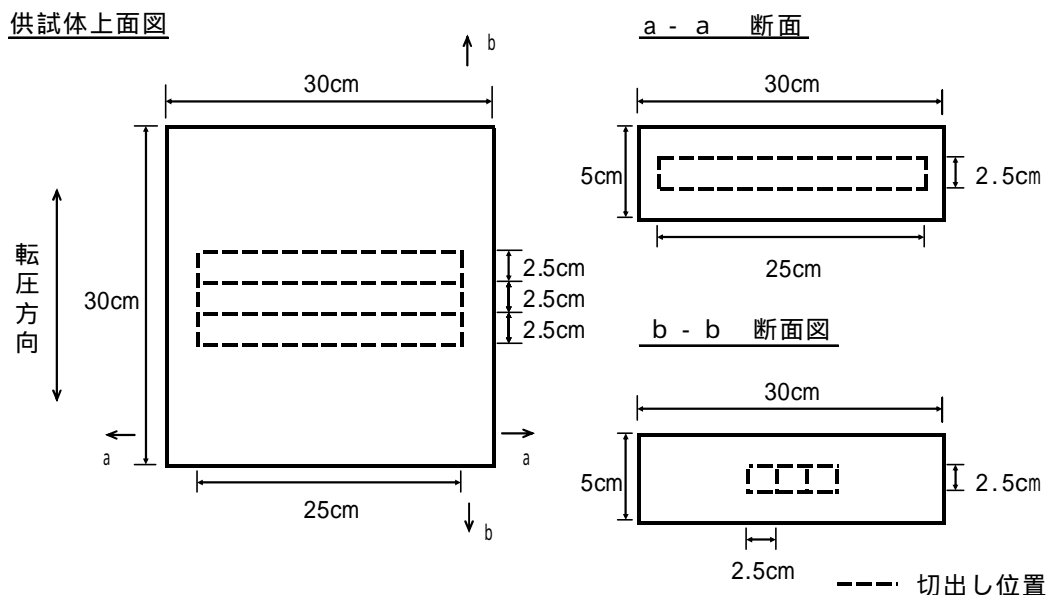


図 - 2 切断方法

切断前の供試体の作製は混合物の種類により次のようにして行う。

- 1) 加熱アスファルト混合物の場合は、「ホイールトラッキング試験方法」に従い供試体を作製する。
- 2) グースアスファルト混合物の場合は、「グースアスファルトの貫入試験方法」に従い、ホイールトラッキング用型枠に流し込み作製する。

(2) 供試体の養生方法

供試体は幅、厚さおよび密度を測定したのち、室内にて十分乾燥を行い、-5 の低温恒温槽に入れ 30 分間養生する。

(3) 曲げ試験

試験機の低温恒温槽を-5 に保ち、養生後の供試体を載荷装置に、締固め面を上面として正しくセットする。載荷速度 50mm/min で中央部に集中載荷する。最大荷重を示して供試体が破断するまで載荷を行い、荷重と変形量を記録する。

5. 結果の整理

(1) 結果の算出

記録された荷重 - 変形量曲線より、最大荷重（破断時）およびその時の変形量を求め、式（1）、式（2）より破断時の曲げ強度および破断時のひずみを求める。ただし、変形量は本州四国連絡橋橋面舗装基準(案)に基づき、立ち上がり部分の補正をしない。

$$\text{破断時の曲げ強度 ( )} = \frac{3 \ell}{2 b h^2} P \quad \dots \dots \dots \text{式 ( 1 )}$$

$$\text{破断時のひずみ ( )} = \frac{6 h}{\ell^2} d \quad \dots \dots \dots \text{式 ( 2 )}$$

- ここに
- b : 供試体の幅 ( cm または m )
  - h : 供試体の厚さ ( cm または m )
  - ℓ : 供試体支点間長さ ( cm または m )
  - P : 破断時の荷重 ( kgf または N )
  - d : 破断時の変形量 ( 中央たわみ量 ) ( cm または m )

( 2 ) 報告事項

- 1) アスファルト混合物の種類
- 2) 破断時の曲げ強度
- 3) 破断時のひずみ (立ち上がり部分の補正無し)

### 3. 直接引張試験方法

#### 1. 目的

加熱アスファルト混合物の引張強度および破壊時のひずみを測定する。

#### 2. 適用範囲

特にたわみ性が要求される鋼床版舗装等に用いられる加熱アスファルト混合物の低温時におけるたわみ性を評価する。配合設計または品質管理を目的として、研究所または試験室で実施する。

#### 3. 試験器具

##### (1) 载荷試験機（引張試験機）

1) 载荷装置は、長さ 10cm、幅 2.5cm、厚さ 2.5cm の供試体を長手方向両端にエポキシ樹脂等で鋳型治具を接着したものを縦に設置し、下部を固定、上部を引張载荷できるもの（図 - 1）。

なお、供試体設置時に载荷装置と治具との間に隙間(あそび)のない構造とする。

2) 载荷速度 0.34mm/S に保つことのできるもの。

3) 試験温度 -5 に保つことのできる低温恒温槽を持ち、その大きさが供試体、载荷装置を収容できること。

4) 荷重と変形量の自記記録装置を持つこと。

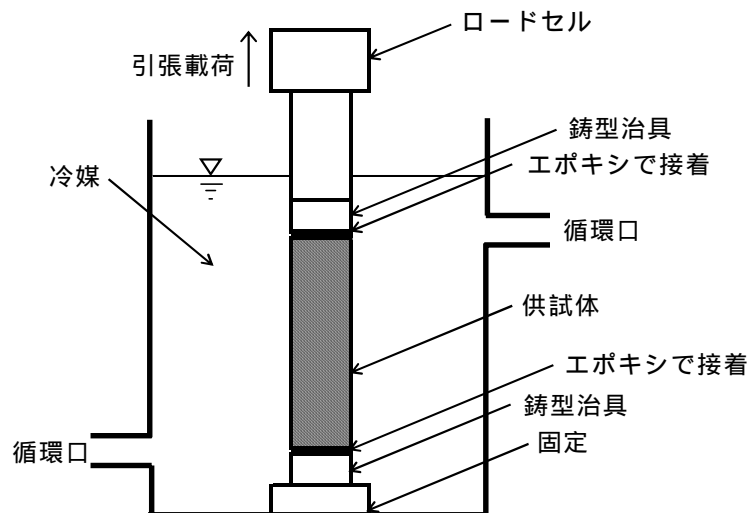


図 - 1 载荷試験機および低温恒温槽の例

(2) 低温恒温槽

供試体および引張試験治具を試験前および試験時に養生する低温恒温槽で-5 に温度が保てるもの。

(3) 冷媒

メタノール等のアルコールで-5 においても凍結しないもの。

(4) 供試体作製器具

「3 - 7 - 3 ホイールトラッキング試験方法」に用いる供試体作製器具と同一のもの一式。

(5) カッタ

コンクリートカッタ等で、供試体を所定の形状に切り出すことができるもの。

4. 試験方法

(1) 供試体の作製

供試体は、ホイールトラッキング試験用型枠を用い、 $30 \times 30 \times 5$ cm の形状で作製したのち、図 - 2 の要領で  $10 \times 2.5 \times 2.5$ cm の形状に6面全てがカッティング面となるようにカッタを用いて切り出す。

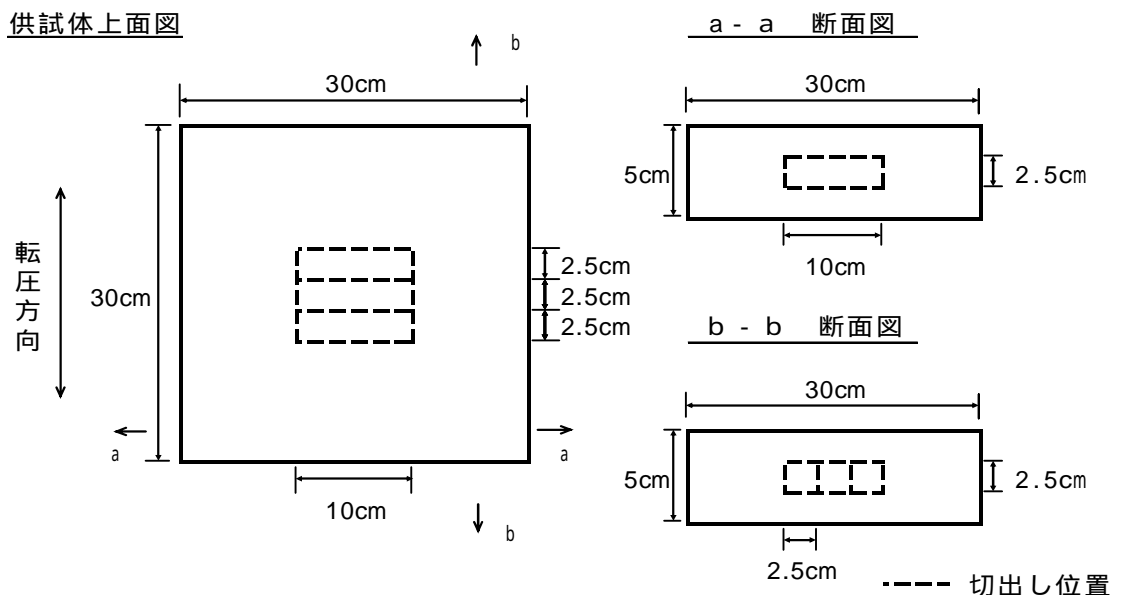


図 - 2 切断方法

切断前の供試体の作製は混合物の種類により次のようにして行う。

- 1) 加熱アスファルト混合物の場合は、「ホイールトラッキング試験方法」に従い供試体を作製する。
- 2) グースアスファルト混合物の場合は、「グースアスファルトの貫入試験方法」に従いホイールトラッキング用型枠に流し込み作製する。

(2) 供試体の養生方法

供試体は幅、厚さおよび密度を測定したのち、室内にて十分乾燥を行い、-5 の低温恒温槽に入れ 30 分間養生する。

(3) 直接引張試験

試験機の低温恒温槽を-5 に保ち、養生後の供試体と一体化した鋳型治具を載荷装置に正しくセットする。載荷速度 0.34mm/S で引張載荷する。最大荷重を示して供試体が破壊するまで載荷を行い、荷重と伸び量を記録する。

5. 結果の整理

(1) 結果の算出

記録された荷重 - 変形量曲線より、最大荷重（破壊時）およびその時の伸び量を求め、式(1)、式(2)より破壊時の引張強度および破壊時のひずみを求める。

$$\text{破壊時の引張強度 ( } \sigma \text{ )} = \frac{P}{A} \dots \dots \dots \text{式(1)}$$

$$\text{破壊時のひずみ ( } \epsilon \text{ )} = \frac{d}{L} \dots \dots \dots \text{式(2)}$$

ここに A : 供試体の断面積 (mm<sup>2</sup>)  
L : 供試体の長さ (mm)  
P : 破壊時の荷重 (N)  
d : 破壊時の伸び量 (mm)

(2) 報告事項

- 1) アスファルト混合物の種類
- 2) 破壊時の引張強度
- 3) 破壊時のひずみ

## 4. 浸透性能試験

### 1. 目的

浸透型床版防水のひび割れへの浸透深さ及び面積を測定する。

### 2. 適用範囲

浸透型防水材料のひび割れへの浸透性能を評価する。品質管理を目的として、研究所または試験室で実施する。

### 3. 試験方法

#### (1) 供試体作成方法

a) 使用する供試体は、コンクリート供試体を作製する。

車両通行時に発生するひび割れを再現するため、型枠に入れたコンクリートが硬化する前に、薄板を供試体長手方向に垂直に入れ、ひび割れを再現する。(図1)

備考：セメントの種類は普通ポルトランドセメントとする。

b) a)によって作製された供試体をハンマー等で衝撃を与え、2分割に破壊する。破壊した供試体は、固定治具及びスペーサー(アルミ箔)を用いて、材料施工面にひび割れ幅が再現されるように、破壊した供試体を組み立てる。なお、ひび割れ幅は0.1mmとし、アルミ箔を重ねてマイクロメータで計測した後、破壊面に設置し作製する。(図2)

備考：この時、各供試体のひび割れ幅が一定となるように、固定治具をどの程度締めかトルクレンチの締め量により管理しておく。

#### (2) 試験方法

浸透型防水材料を、その材料の施工仕様に基づいて上面に施工し、必要な養生を行う。

なお、防水材が側面から垂れないように、垂れ止めを設置するものとする。(図3参照)

備考：浸透型防水材には、浸透度合いが目視可能となるように塗料(蛍光剤など)を混入しておく。供試体の施工に先立ち、現場で施工を行う材料の施工仕様を定め、これと同等の施工を供試体の作製においても実施する。

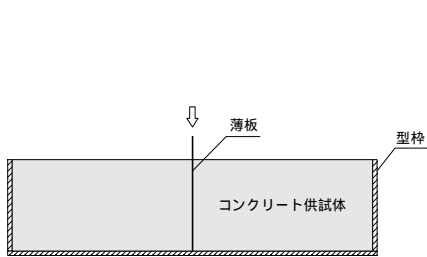


図 1 ひび割れの再現方法

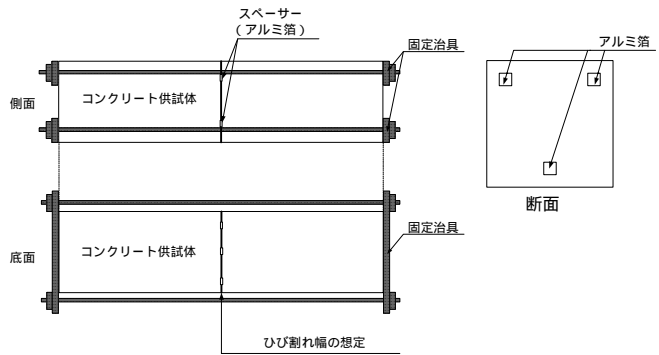


図 2 治具及びスペーサーの取り付け

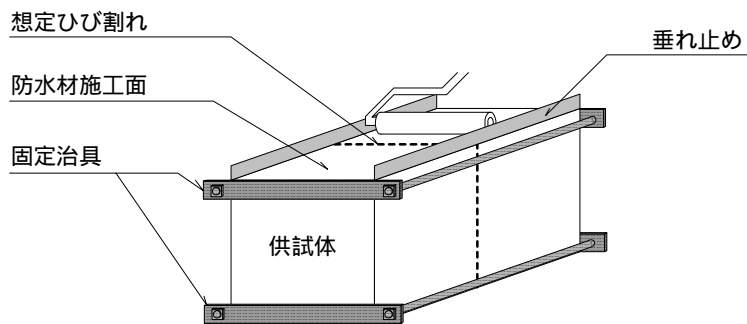


図 3 浸透型防水材の施工

#### 4. 結果の整理

##### (1) 結果の算出

養生終了後、供試体の防水材施工面を下側にし、固定治具をはずす。この時供試体表面の浸透度合いについて記録するものとする。

##### (2) 報告事項

- 1) 浸透深さ (最大、平均、最小)
- 2) 浸透面積

## 5. 床版耐久性試験

### 1. 目的

浸透型防水材料の RC 床版に対する補修効果を確認する。

### 2. 適用範囲

浸透型防水材料の使用による床版疲労寿命の向上を確認するため、防水施工の有無による走行回数の比較を研究所または試験室で実施する。

### 3. 試験方法

#### (1) 供試体作製方法

供試体は、RC 床版の部分供試体を 2 体使用する。

橋軸直角方向にクラックを発生させるため、上・下面ともに床版上に橋軸直角方向に分布荷重を載荷し、版を単純梁として挙動させ、静的曲げによるクラックを両面に発生させる。(図1)

既設床版の舗装切削を再現するため、貫通ひび割れを与えた床版の表面を残す。切削痕は、床版の長手方向にコンクリートカッタ等で切込みを入れ、切込み両端部からハンマードリル等で切削痕を作製するものとする。(図2)

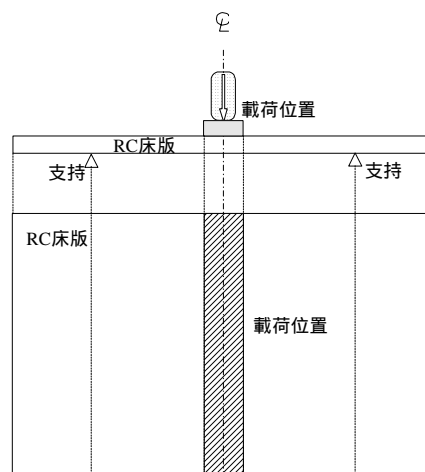


図1 静的荷重位置

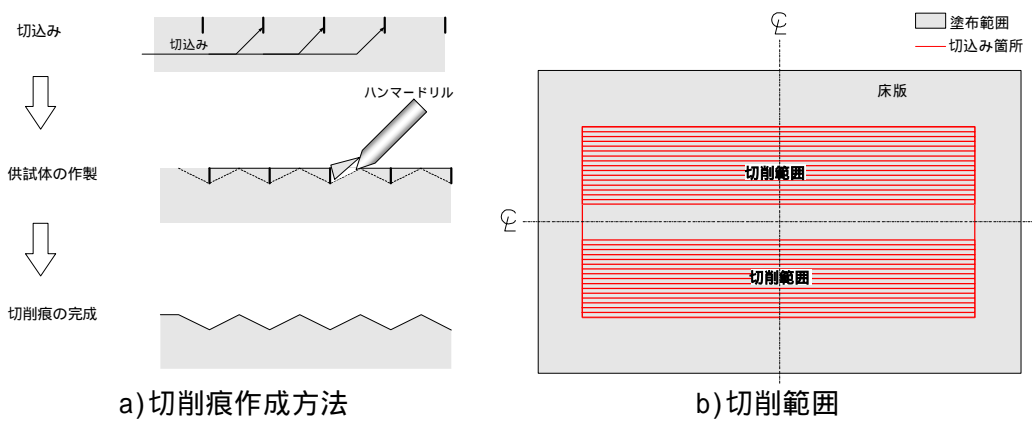


図2 切削痕作成方法及び切削範囲

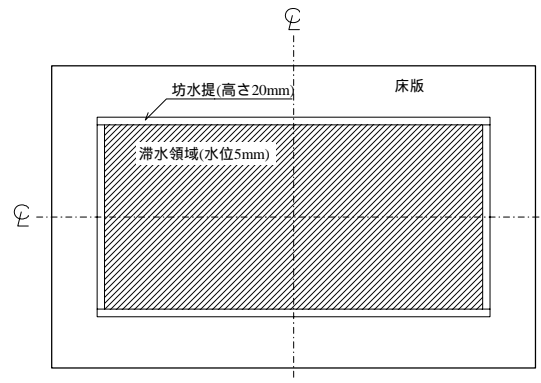


図3 防水堤設置位置

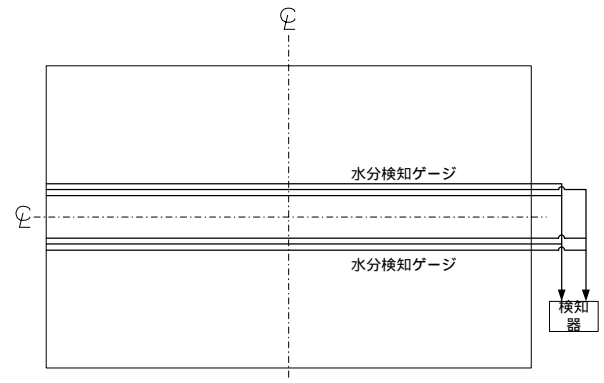


図4 水分検知ゲージ設置位置

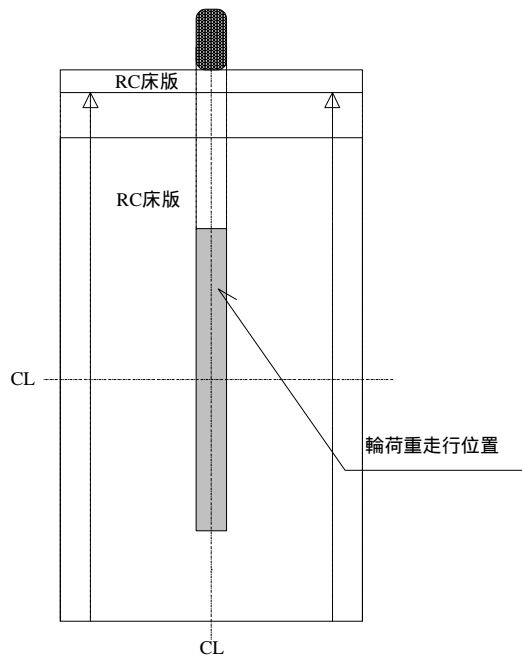
(2) 試験方法

曲げひび割れ・貫通ひび割れを与えた、切削痕が残った床版のうち1体に浸透型床版補修防水材料を施工仕様に基づいて施工し、必要な養生を行う。

防水効果を確認する目的で、防水工の上には高さ20mmの面木をシリコンで接着し防水堤を設置し、滞水状態とする(図3)。

試験中の床版の変位および漏水の有無を確認するため、供試体に漏水検知ゲージ線(0.45mm)を設置する。なお、漏水検知ゲージは、水が触れるとショートし、検知器が作動することで試験機が停止する構造のものである。(図4)

供試体に輪荷重を載荷、走行させ破壊させる。試験期間中、供試体上の堤内側に常に深さ5mm程度の滞水状態を保つようにする。



輪荷重試験機諸元	
移動形式	クランク式
移動方向	往復動
支持方式	単純支持

図5 小型輪荷重走行位置及び試験機諸元

#### 4. 結果の整理

##### (1) 結果の算出

試験中の漏水の有無、載荷回数等を記録する。

試験終了後、供試体の表面の損傷状況について記録する。

##### (2) 報告事項

1) 輪荷重走行回数 (Na: 防水層の施工なしの走行回数、Np: 防水層施工時の走行回数)

2) 載荷荷重及び載荷パターン

參考資料 - 2  
工事記録表  
(新設工事)

#### 記入上の注意

1. 記入欄が不足する場合は必要な頁を追加すること。
2. 様式 3 から 6 は、材料種類により記入し、不足する場合は必要な頁を追加すること。
3. 様式-7 から 9 までは、施工日単位で記入し、不足する場合は必要な頁を追加すること。
4. セメントコンクリートを用いる場合については、レディーミクスト・コンクリートに関する配合報告書などの資料を添付すること。

(様式 - 1)

舗装工事記録表 (新設工事)					整理番号		
工 事 名					工期		
工事事務所名					請負業者		
路 線 名		方向	上、下、内 外、東、西	区間 延長 (m)	本 線		
					ランプ		
工 事 内 容	面 積 (m <sup>2</sup> )	舗装区分		車道部の舗装	料金所付近の 舗装	路肩部等の 舗装	
		構造種別					
		高架	コンクリート床版				
			鋼 床 版				
		土 工					
トンネル及び半地下							
床版工事 竣工年月		年 月	舗設年月	年 月	適用舗装基準	年度版	
概略 平面 図							
標準 横断 図							
備考							



( 様式 - 3 )

舗装工事記録表 ( 新設工事 )				整理番号	
材料名		メーカー	産地又は材質・形状		
骨 材	S - 30				
	S - 20				
	S - 13				
	S - 5				
	粗 砂				
	細 砂				
	スクリーングラス				
	フィラー				
	その他 ( )				
ア ス フ ア ル ト	ポリマー改質アスファルトH型				
	ポリマー改質アスファルト 型				
ア ス フ ア ル ト 乳 剤	PK-3・PK-4				
	PKR-T-1・PKR-T-2				
	接 着 剤				
	成型目地材				
	防 水 材				
	導 水 管				
	網状ルーフィング材				
	レディミストコンクリート				
	浸透ミルク				
材料名		メーカー	所在地	プラントの 製造能力	現場までの 所用時間
ア ス フ ア ル ト 混 合 物					

(様式 - 4)

舗装工事記録表 (新設工事)					整理番号			
アスファルトの性状	アスファルト種類	ポリマー改質 アスファルトH型	ポリマー改質 アスファルト型					
	針入度 (25 ) (1/10 mm)							
	軟化点 ( )							
	伸度 (cm)							
	蒸発質量変化率 (%)	-						
	蒸発後の針入度 (%)	-						
	薄膜加熱質量変化率 (%)		-					
	薄膜加熱針入度残留率 (%)		-					
	トルエン可溶分 (%)	-						
	引火点 ( )							
	密度 (15 )(g/cm <sup>3</sup> )							
	フラース脆化点 ( )		-					
	粗骨材のはく離面積率 (%)		-					
	曲げひずみ (-20 )(cm/cm)		-					
	混合温度 (中央値) ( )							
締固め温度 (中央値) ( )								
骨材の性状		表乾比重	吸水量 (%)	すりへり減量 (%)	施工面積 (m <sup>2</sup> )	防 水 工	施 工 範 圍 図 示	
	S - 20							
	S - 13				構造種別			
	S - 5							
	粗砂				防水層の種別			
	細砂							
	スクリーニングス							
	フィラー				粗骨材の石質			
乳剤	工種	タックコート						
	規格							
	散布量 (L/m <sup>2</sup> )							
接着剤	材質							
	何回塗り							
	塗布量 (L/m <sup>2</sup> )							

(様式 - 5)

舗装工事記録表 (新設工事)		整理番号					
床版の区分							
層 別							
混合物名称							
アスファルト種類							
アスファルト混合物の室内配合試験結果 (現場を点線の右側に記入)	骨材配合率 %	S - 20					
		S - 13					
		S - 5					
		粗 砂					
		細 砂					
		スクリーニングス					
		フィラー					
	その他 ( )						
	通過重量百分率 %	26.5 mm					
		19.0 mm					
		13.2 mm					
		4.75 mm					
		2.36 mm					
		600 μm					
		300 μm					
	マーシャル特性値	150 μm					
		75 μm					
		最適アスファルト (%)					
		安定度 (kN)					
		フロー値 (1/100cm)					
		空隙率 (%)					
		飽和度 (%)					
	骨材空隙率 (%)						
	残留安定度 (%)						
	透水係数 (cm/sec)						
	群 WT	動的安定度 (回/mm)					
		d <sub>60</sub> 変形量 (mm)					
	水浸 WT	はく離率 (%)					
ゲースアスファルト	アスファルト量 (%)						
	貫入量	測定値範囲					
		" 平均					
	流動性	測定回数					
測定値範囲							
" 平均							
半たわみ性舗装	アスファルト量 (%)						
	空隙率	測定値範囲					
		" 平均					
	透過ミルク	普通用, 超速硬用					
		加-値	測定値範囲				
			" 平均				
		曲げ強度	測定値範囲				
	" 平均						
	混合物	曲げ強度	測定値範囲				
			" 平均				
曲げ強度		測定値範囲					
		" 平均					



(様式 - 7)

舗装工事記録表 (新設工事)						整理番号		
	舗装の区分		車道部の舗装					
	層 別		表 層			基 層		
	混合物名称							
	アスファルト種類		ポリマー改質 アスファルトH型			ポリマー改質 アスファルト型		
	施 工 日							
	区 間							
表	施 工 管 理	アスファルト温度(平均) ( )						
		骨材温度(平均) ( )						
		出荷混合物温度(平均)( )						
		現場到着温度(平均) ( )						
		現場到着温度(最低) ( )						
		初転圧温度(平均) ( )						
		交通開放時表面温度 ( )						
		気温(範囲) ( )						
相対湿度(範囲)								
層 ・ 基 質 層	品 質 検 査	抽 出 個 数						
		締 固 め 度	基準密度 g/cm <sup>3</sup>					
			測定値の範囲					
	測定値の平均値							
	抽出 粒度	2.36 mm	設 定 値					
			測定値の範囲					
			測定値の平均					
		75 μm	設 定 値					
			測定値の範囲					
			測定値の平均					
	ア ン ギ ル 値	設 定 値						
		測定値の範囲						
測定値の平均								
出 来 形 検 査	厚 さ	測 定 個 数						
		規格値合格個数						
		全測定個数の平均						
	平 規 程	測 定 方 法						
		標準偏差					-	
	現場透水量 (ml/15sec)						-	
	すべり抵抗値(平均)						-	
すべり抵抗値(最小)								
伸縮部コンとの段差(mm)								

項目	舗装の区分		路 肩	セッ ト バ ック	非 常 駐 車 帯				
施 工 日									
区 間									
気温（範囲）									
相対湿度（範囲）									
コンクリート	個 数								
	ス ラ ン プ								
	空 気 量								
	圧縮強度(28日)								
グ ー ス ア ス フ ア ルト	抽 出 個 数								
	2.36 mm	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
	75 μm	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
	ア ス フ ア ルト 量	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
流 動 性	測 定 回 数								
	測 定 値 の 範 囲								
	測 定 値 の 平 均								

出来形検査

項目	舗装区分、種類		路肩部	セッ ト バ ック	非 常 駐 車 帯			
施 工 日								
区 間								
目 標 舗 設 厚	測 定 個 数							
	測 定 値 の 範 囲							
	測 定 値 の 平 均							

項目	舗装区分、種類		料 金 所 付 近	伸 縮 装 置 付 近			
施 工 日							
区 間							
測 定 個 数							
表 層 厚 さ	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
浸 透 ミ ル ク の 浸 透 厚	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
す べ り 抵 抗	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
曲 げ 強 度	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
破 断 ひ ず み	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						

(様式 - 8)

舗装工事記録表 (新設工事)		整理番号									
施工者名		施工日時		平成 年 月 日							
天候		気温									
風速		m/s		施工区間							
全体施工面積		(L) m × (W) m = m <sup>2</sup>		日施工面積 m <sup>2</sup>							
床版の状態		仕上げ		ホウキ目、木ゴテ、金ゴテ、その他 ( )							
		排水柵		なし、あり ( ) 箇所							
		水分量		%		レイトンス		なし、あり			
		ほこり		なし、あり		油脂		なし、あり			
施工		清掃方法		ホウキ、コンプレッサー、スーパー							
		施工方法		ハケ、散布機、その他 ( )							
		養生時間		時間 分							
出来形管理異常の有無		塗りむら		なし、あり (状況 )		処置方法					
		気泡		なし、あり (状況 )		処置方法					
		キズ		なし、あり (状況 )		処置方法					
		シワ		なし、あり (状況 )		処置方法					
		はがれ		なし、あり (状況 )		処置方法					
		目地工		なし、あり (状況 )		処置方法					
		端部処理		なし、あり (状況 )		処置方法					
		排水柵部		なし、あり (状況 )		処置方法					
材料使用量		指定の使用数量		製品名		単位使用量		施工面積		所定の使用量	
		現場での使用数量		製品名		単位数量( 1 缶、1 袋当り )		缶数等		使用量	
その他特記事項											
記録者		職員名									

(様式 - 9)

舗装工事記録表 (新設工事)			整理番号													
施工者名			施工日時	平成	年	月 日										
材料業者名			材料名													
施工区間																
測定箇所概略位置	(図示)															
塗膜厚測定値 (mm)	測点 No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	標準値			
	測定値															
測定方法・測定後の処理方法の概要	(図および文章による記入)															

参考資料 - 3  
工事記録表  
(打換え工事)

#### 記入上の注意

1. 記入欄が不足する場合は必要な頁を追加すること。
2. 様式 3 から 6 は、材料種類により記入し、不足する場合は必要な頁を追加すること。
3. 様式-7 から 9 までは、施工日単位で記入し、不足する場合は必要な欄、頁を追加すること。
4. セメントコンクリートを用いる場合については、レディーミクスト・コンクリートに関する配合報告書などの資料を添付すること。

(様式 - 1)

舗装補修工事記録表 (打換え工事)							整理番号		
工事名				工期					
事務所名				請負業者					
工事 内容	路線名	方向 (上、下、 内、外、 東、西)	車線 (走行・追越)	区間 (XP・Ex・Po)	面積 (㎡)	舗装区分		構造種別 (コンクリート床版 鋼床版・土工・トンネル)	
						打換え前	打換え後		
					~				
					~				
					~				
					~				
打換えの理由	状 況			該当する区間	今回の打換え時期	年 月 日			
	1. わだち掘れ					過去の打換え回数	回		
	2. ひびわれ								
	3. 路面すりへり								
	4. 路面のすべり				適用舗装基準	年度版			
5. その他 ( )									
標準断面図	打換え前				打換え後				
備考									



(様式 - 3)

舗装工事記録表 (打換え工事)				整理番号	
材料名		メーカー	産地又は材質・形状		
骨材	S - 30				
	S - 20				
	S - 13				
	S - 5				
	粗 砂				
	細 砂				
	スクリングス				
	フィラー				
	その他( )				
アスファルト	ポリマー改質アスファルト H型				
アスファルト 乳剤	PK-3・PK-4				
	PKR-T-1・KR-T-2				
	接 着 剤				
	浸透系防水材				
	成型目地材				
	防 水 材				
	導 水 管				
	網状ルーフィング材				
	レディミクストコンクリート				
	浸透ミルク				
材料名		メーカー	所在地	プラントの 製造能力	現場までの 所用時間
アスファルト 混合物					

(様式 - 4)

舗装工事記録表 (打換え工事)					整理番号			
ア ス フ ア ル ト の 性 状	アスファルト種類	ホリマ-改質 アスファルト H型						
	針入度 (25 )(1/10 mm)							
	軟化点 ( )							
	伸 度 (cm)							
	蒸発質量変化率 ( % )	-						
	蒸発後の針入度 ( % )	-						
	薄膜加熱質量変化率 ( % )							
	薄膜加熱針入度残留率 ( % )							
	トルエン可溶分 ( % )	-						
	引 火 点 ( )							
	密 度 (15 )(g/cm <sup>3</sup> )							
	フラス脆化点 ( )							
	粗骨材のはく離面積率 ( % )							
	曲げひずみ (-20 )(cm/cm)							
	混合温度 (中央値) ( )							
締固め温度 (中央値) ( )								
骨 材 の 性 状		表乾比重	吸水量 (%)	すりへり 減量(%)	防 水 工	施工面積 (m <sup>2</sup> )	施 工 範 囲 図 示	
	S - 20					構 造 種 別		
	S - 13							
	S - 5							
	粗 砂				防 水 工	防 水 層 の 種 別		
	細 砂							
	スクリーングラス							
	ファイラー				防 水 工	防 水 層 の 種 別		
	粗骨材の石質							
乳 剤	工 種	タックコート		防 水 工	施 工 範 囲 図 示			
	規 格							
	散布量 (L/m <sup>2</sup> )							
接 着 剤	材 質			防 水 工	施 工 範 囲 図 示			
	塗り回数							
	塗布量 (L/m <sup>2</sup> )							

(様式 - 5)

舗装工事記録表 (打換え工事)		整理番号					
床版の区分							
層 別							
混合物名称							
アスファルト種類							
アスファルト混合物の室内配合試験結果 (現場を点線の右側に記入)	骨材配合率 %	S - 20					
		S - 13					
		S - 5					
		粗 砂					
		細 砂					
		スクリーニングス					
		フィラー					
	その他 ( )						
	通過重量百分率 %	26.5 mm					
		19.0 mm					
		13.2 mm					
		4.75 mm					
		2.36 mm					
		600 μm					
		300 μm					
	マーシャル特性値	150 μm					
		75 μm					
		最適アスファルト (%)					
安定度 (kN)							
フロー値 (1/100cm)							
空隙率 (%)							
飽和度 (%)							
骨材間隙率 (%)							
残留安定度 (%)							
透水係数 (cm/sec)							
摩 WT	動的安定度 (回/mm)						
	d <sub>60</sub> 変形量 (mm)						
水浸 WT	はく離率 (%)						
グー スア スファ ルト	アスファルト量 (%)						
	實 入 量	測定値範囲					
		" 平均					
	流 動 性	測定回数					
		測定値範囲					
" 平均							
半 た わ み 性 舗 装	アスファルト量 (%)						
	空 隙 率	測定値範囲					
		" 平均					
	浸 透 ミ ルク	普通用, 超速硬用					
		刃 値	測定値範囲				
			" 平均				
		曲 げ 強 度	測定値範囲				
	" 平均						
	混 合 物	曲 げ 強 度	測定値範囲				
			" 平均				
曲 げ 強 度		測定値範囲					
		" 平均					



舗装工事記録表 (打換え工事)						整理番号		
舗装の区分		車道部の舗装						
層 別		表 層			基 層			
混合物名称								
アスファルト種類		高粘度 改質 アスファルト			改質 アスファルト 型			
施 工 日								
区 間								
施 工 管 理	アスファルト温度(平均) ( )							
	骨材温度(平均) ( )							
	出荷混合物温度(平均)( )							
	現場到着温度(平均) ( )							
	" (最低) ( )							
	初転圧温度(平均) ( )							
	交通開放時表面温度 ( )							
	気温(範囲) ( )							
	相対湿度(範囲)							
品 質 検 査	抽 出 個 数							
	締 固 め 度	基準密度 g/cm <sup>3</sup>						
		測定値の範囲						
		測定値の平均値						
	抽 出 粒 度	2.36 mm	設 定 値					
			測定値の範囲					
			測定値の平均					
		75 μm	設 定 値					
			測定値の範囲					
			測定値の平均					
	メ ン ト 量	設 定 値						
		測定値の範囲						
測定値の平均								
出 来 形 検 査	厚 さ	測 定 個 数						
		規格値合格個数						
		全測定個数の平均						
	平 坦 性	測 定 方 法						
		標 準 偏 差					-	
	現場透水量 (ml/15sec)						-	
	すべり抵抗値(平均)						-	
	すべり抵抗値(最小)							
伸縮部コンとの段差(mm)								

項目	舗装の区分		路 肩	セッ ト バ ック	非 常 駐 車 帯				
施 工 日									
区 間									
気温（範囲）									
相対湿度（範囲）									
コンクリート	個 数								
	ス ラ ン プ								
	空 気 量								
	圧縮強度(28日)								
グ ー ス ア ス フ ア ルト	抽 出 個 数								
	2.36 mm	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
	75 μm	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
	ア ス フ ア ルト 量	設 定 値							
		測 定 値 の 範 囲							
		測 定 値 の 平 均							
流 動 性	測 定 回 数								
	測 定 値 の 範 囲								
	測 定 値 の 平 均								

出来形検査

項目	舗装区分、種類		路肩部	セッ ト バ ック	非 常 駐 車 帯			
施 工 日								
区 間								
目 標 舗 設 厚	測 定 個 数							
	測 定 値 の 範 囲							
	測 定 値 の 平 均							

項目	舗装区分、種類		料 金 所 付 近	伸 縮 装 置 付 近			
施 工 日							
区 間							
測 定 個 数							
表 層 厚 さ	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
浸 透 ミ ル ク の 浸 透 厚	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
す べ り 抵 抗	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
曲 げ 強 度	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						
破 断 ひ ず み	測 定 値 の 範 囲						
	測 定 値 の 平 均						

(様式 - 8)

舗装工事記録表 (打換え工事)		整理番号			
施工者名		施工日時	平成 年 月 日		
天候		気温			
風速	m/s	施工区間			
全体施工面積	(L) m × (W) m = m <sup>2</sup>	日施工面積	m <sup>2</sup>		
床版の状態	床版面の状況	切削面の粗さ、床版の異常の有無など			
	排水柵	なし、あり ( ) 箇所			
	水分量	%	レイタンス	なし、あり	
	ほこり	なし、あり	油脂	なし、あり	
施工	清掃方法	ホウキ、コンプレッサー、スーパー			
	施工方法	ハケ、散布機、その他 ( )			
	養生時間	時間	分		
出来形管理異常の有無	塗りむら	なし、あり (状況 )	処置方法		
	気泡	なし、あり (状況 )	処置方法		
	キズ	なし、あり (状況 )	処置方法		
	シワ	なし、あり (状況 )	処置方法		
	はがれ	なし、あり (状況 )	処置方法		
	目地工	なし、あり (状況 )	処置方法		
	端部処理	なし、あり (状況 )	処置方法		
	排水柵部	なし、あり (状況 )	処置方法		
材料使用量	指定の使用数量	製品名	単位使用量	施工面積	所定の使用量
	現場での使用数量	製品名	単位数量( 1 缶、1 袋当り )	缶数等	使用量
その他特記事項					
記録者	職員名				

(様式 - 9)

舗装工事記録表 (打換え工事)		整理番号											
材料業者名	施工区間												
材料名	施工日時		平成	年	月	日							
測定箇所概略位置	(図示)										測定値		
											測定値		
測定方法・測定後の処理方法の概要	測点No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均値	標準値
	測定値												
(図および文章による記入)													